

江戸城本丸御殿等江戸城全体整備構想の策定活動と表裏一体のテーマとして進める
江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくり
プラットフォーム&Platform

日頃より、ご支援を戴き篤く御礼申し上げます。

コロナ禍の下、如何お過ごしでしょうか。皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

世界の首都は、久しく、歴史的伝統や文化的創造の時代に入り、それらを磨きをかけ都市間競争の熾烈さに立ち向かっています。

一方、2020年東京観光審議会資料が示すように、現在の東京は滞在型の観光都市ではなく、ハブ化し素通りされる都市として窺われているのではないのでしょうか。

近年、日本における、歴史まちづくりのイメージは、倉敷や高山、妻籠、小樽運河などの街並み保存運動のように、例外的な都市や市町村だけの課題として、捉えられてきた向きは否めず、そもそも明治以降の東京都市計画は、江戸東京の歴史的一元性を踏まえて計画されてきた訳ではない、と云えるでしょう。

しかし、時代は変わり、美しい景観や都市の歴史的なストックが貴重な宝物であり、都市の個性を活かした観光資源とみなされる時代になってきました。既に、80余りの自治体は、国の様々な補助や支援を受けて歴史文化まちづくりを推進しています。400年間、首府であり続けた東京は、日本一文化財の多い都市であり、伝統工芸に至っても日本有数の産地と云われています。

江戸東京の有形無形の歴史文化資源を活かした観光まちづくりの第一歩は、調査研究の成果である、江戸城跡に現存する600余の歴史的価値の高い建造物等をコアとし江戸東京歴史文化資源等・プラットフォームにより順次、見える化を進めております。

江戸東京の歴史的文化的性という実像が鮮やかに浮かび上がるのは、それらに関与する人々の想いや活動を一元的に捉えてこそ、豊かな世界がひろがりと共に新たな息吹による付加価値をも見出すことになるのではないのでしょうか。

これらの活動は、江戸城の要である本丸御殿等江戸城全体整備構想の策定活動と表裏一体のテーマとして進めることにより、必ずや城郭都市東京の実現に向かうことになると存じます。

一人でも多くのみなさまのご参加を、心よりお待ちしております。

2021年(令和3年)7月好日

理事長 小竹直隆